

定位する力を配膳のお手伝いへとつなげる

長期休みが迫ってきました。ご家庭での時間が長くなる長期休み中はあれや…これや…といろいろと取り組みたくなるところなのですが、1つ「これだけは頑張ったって言えるものを作ろう！」というところから始めるのもいいです。

そこで、今回のエントリーでは安価で、且つ取り組みやすいお手伝いについて取り上げます。

点を見取る課題(定位課題)は認知学習の比較的早い段階で取り組む課題です。ドットを見て、その上にシールを貼っていくというやり方もありますし、「ペグ刺し」と言われる穴にペグを差し込んでいく様な課題もあります。私の経験の中で、子どもが興味をもって取り組んでくれていたものには右図の様なショートケーキを見立てた知育玩具などもあります。(参考:ウッドゲーム いちごケーキ W-230 Amazon ¥850- 2013.12.19 現在)この力が伸びてくると「頂点を見取る」ことができるようになって、多角形やひらがな、カタカナの様な複雑な図形・文字についても見分ける(弁別する)ことができるようになっていきます。



Fig 1

さて、

「点を見取る力」

という見方をしてしまうととても認知学習的なのですが、

「決められた場所の上に、物を置くことができる力」

という見方をすれば、俄然生活の中への汎用性が出てきます。そして、長期休業中には、「配膳する」というお手伝いの形でこの定位課題の力を生活の中に生かしていきましょう！」と提案します。

但し、その為には配膳先に何らかの印をつけなければいけません。なぜならば子どもはその印を見て、その印の上にコップなりお皿なりを置いていくからです。ダイニングテーブルに直接印を打つのは現実的には気持ちがありませんし、上手く行かない場合もあるという点でリスクが高いです。そこで、お勧めするのが100円均一で売っているテーブルクロスを使っての印付けです。

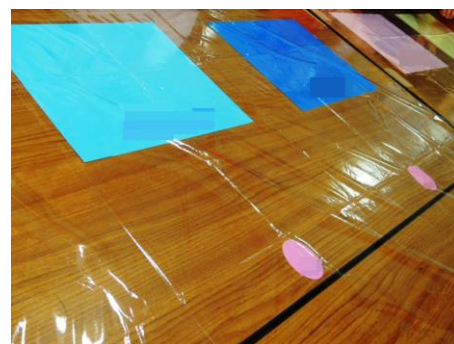


Fig 2

右のFig2とFig3は両方私が実践の中で使用した教材ですが、Fig2については四角の色紙の上にお盆なり、どんぶりなりが1つだけ配膳されることを想定しています。ピンクの丸の上にはコップがきます。透明のテーブルクロスと色画用紙を使うことによってシンプルに「どの印の上に何を置くのか」ということを指示しています。Fig3についてはもう少し難しく、柄のついたカフェクロスの上にマジックで「ケーキのお皿はここ」「フォークはこの向き」「コースターはここ」というように細かく指定が入っています。毎回出てくるお皿が固定されているときにはこちらの方がすっきりと取り組むことができるお子さんも多いのかと思います。

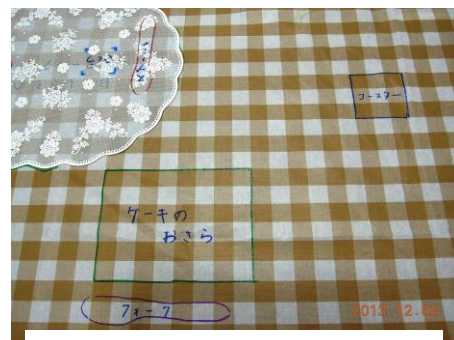


Fig 3

下地の色画用紙を入れ替えるだけでレイアウトを簡単に換えられるという点ではFig2の方がご家庭で使うには実用的でしょうか。家で過ごすことが長くなる長期休業中。学んだことを「点を見る力」という認知上の力にとどまらずに、「決められた場所の上に、物を置くことができる力」として生活の中に生かしていただければ幸いです。